

令和5年11月22日
企画調整局

「市外転出者へのアンケート調査」の結果報告について(速報版)

1 実施目的

「人や企業に選ばれるまち」に向けて、北九州市外への転出者の転出の契機、北九州市の印象等を把握するため、実施するものである。

2 実施内容

(1)調査対象者

令和5年1月から7月までの間に北九州市から転出(国内)した18～39歳までの日本国籍を有する者

(2)調査方法

- ・ WEB 調査
- ・ 調査対象者から無作為に抽出した 5,000 人に対して、アンケート URL と QR コードを記載した依頼文を送付

(3)有効回答者数

1,159 人(回答率:23.6%)

(4)調査期間

令和5年10月2日(月)～10月15日(日)

(5)質問項目

- ・ 転出先の都道府県(福岡県内の場合は市町村)
- ・ 転出のきっかけ
- ・ 転出先の自治体を選んだ理由
- ・ 北九州市の印象 など

3 調査結果

- ・ 報告書(速報版)……資料3-3のとおり
- ・ 報告書(最終版)……12月上旬完成(予定)

「市外転出者へのアンケート調査(速報版)」の結果(まとめ)

1. 転出先の状況	報告書ページ (図表番号)
(1) 転出先は、福岡県が最も多く(21.5%)、次いで東京都(14.1%)、大阪府(6.8%)、神奈川県(6.0%)などの順	P4 (図表 2-4)
(2) 福岡県内の転出先では、福岡市が最も多く(39.8%)、次いで飯塚市(4.8%)、行橋市(4.4%)、宗像市(4.0%)、福津市(4.0%)などの順	P5 (図表 2-5)
(3) 転出した世帯のうち、子と同居する世帯の子の就学状況は、未就学(小学校入学前)が最も多い	P7 (図表 2-8)

2. 転出の契機等

(1) 転出の契機は、「就職」が最も多く、次いで「転勤」、「結婚」、「転職」などの順	P9 (図表 2-11)
(2) 男女別では、 男性…就職(33.9%)、転勤(26.3%)、進学(11.8%) 女性…就職(34.0%)、結婚(18.0%)、転勤(13.6%)	P10 (図表 2-14)
(3) 年齢別では、 18、19歳…進学(60.5%)、就職(26.3%)、転勤(2.6%) 20～24歳…就職(67.7%)、進学(10.3%)、転勤(6.9%) 25～29歳…転勤(25.9%)、結婚(23.3%)、就職(17.2%) 30～34歳…転勤(35.4%)、転職(21.3%)、結婚(18.3%) 35～39歳…転勤(43.7%)、結婚(14.8%)、転職(12.6%)	P11 (図表 2-15)
(4) 転出先の選定理由は、通勤・通学の交通の便が良い(26.6%)、住宅が用意されていた(17.6%)、配偶者が住んでいた、または親族が近くに住んでいる(15.0%)などの順	P12 (図表 2-16)
(5) 転出先の検討状況は、 ・北九州市以外の市区町村に住むしかなかった 55.0% ・北九州市以外に住むことを決めていた 36.9% ・北九州市を含めて探したが、他の市区町村に決めた 8.1%	P13 (図表 2-17)
(6) 学生の転出後の職業は、医療・福祉が最も多く(18.9%)、次いで製造業(18.6%)、情報通信業(14.0%)などの順	P15 (図表 2-19)

3. 北九州市の印象

<p>(1)【高評価:「良い」、「やや良い」の合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の利便性(90.2%) ・病院等の医療体制(88.9%) ・緑・公園などの自然環境(88.0%) ・まちの雰囲気(83.5%) などの順で評価が高い <p>【低評価:「悪い」、「やや悪い」の合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世間の評判(48.6%) ・治安(44.6%) ・イベントや娯楽の充実(25.4%) などの順で評価が低い 	<p>P18 (図表 2-23)</p>
<p>(2)男女別では、順位が前後するものの、高評価、低評価の項目は共通している</p> <p>【高評価:「良い」、「やや良い」の合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院等の医療体制(男性 1 位、女性 3 位) ・日常生活の利便性(男性 2 位、女性 1 位) ・緑・公園などの自然環境(男性 3 位、女性 2 位) <p>【低評価:「悪い」、「やや悪い」の合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治安(男性 1 位、女性 2 位) ・世間の評判(男性 2 位、女性 1 位) ・イベントや娯楽の充実(男性、女性 3 位) 	<p>P19 (図表 2-24) (図表 2-25)</p>
<p>(3)年齢別では、順位が前後するものの、高評価、低評価の項目は概ね共通している</p> <p>【高評価:「良い」、「やや良い」の合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■共 通 <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の利便性 ・緑・公園などの自然環境 ■18、19 歳、20～24 歳、25～29 歳 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館、美術館、図書館など施設の充実 ■30～34 歳、35～39 歳 <ul style="list-style-type: none"> ・病院等の医療体制 <p>【低評価:「悪い」、「やや悪い」の合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■共 通 <ul style="list-style-type: none"> ・治安 ・世間の評判 ■18、19 歳、20～24 歳、25～29 歳 <ul style="list-style-type: none"> ・イベントや娯楽の充実 ■30～34 歳、35～39 歳 <ul style="list-style-type: none"> ・市民性(市民の雰囲気) 	<p>P20 (図表 2-26) (図表 2-27)</p>

市外転出者へのアンケート調査 報告書(速報版)

2023年10月27日

目次

1. 調査の目的と概要	1
1.1. 調査の目的	1
1.2. 調査対象	1
1.3. 実施方法	1
1.4. 調査期間	1
1.5. 報告書の見方	1
2. 調査結果	2
2.1. 全体集計結果	2
2.2. 属性	2
2.2.1. 性別	2
2.2.2. 年齢	3
2.3. 転出前後の状況	4
2.3.1. 転出先	4
2.3.2. 世帯構成	6
2.3.3. 住居の所有形態	8
2.4. 転出の動機について	9
2.4.1. 転出のきっかけ	9
2.4.2. 転出先の選定理由	12
(1) 転出先の選定理由	12
(2) 転出先の検討状況	13
2.4.3. 転出前後の変化	14
(1) 転出前の職業(業種)	14
(2) 学生の転出後の職業(業種)	15
(3) 転出前の通勤・通学時間	16
(4) 転出後の通勤・通学時間	16
(5) 世帯収入	17
2.5. 北九州市への印象	18
2.5.1. 北九州市への印象	18

1. 調査の目的と概要

1.1. 調査の目的

本アンケート調査は、「人や企業に選ばれるまち」の実現に向けて、北九州市外への転出者の転出の背景、北九州市の印象等を把握するため実施するものである。

1.2. 調査対象

令和5年1月から7月までの間に北九州市から転出（国内）した18～39歳までの日本国籍を有する者

1.3. 実施方法

- ・調査はWEB調査（Google Form）にて実施
- ・無作為に抽出した5,000件の調査対象者に対して、アンケートURLとQRコードを記載した依頼文を送付

1.4. 調査期間

令和5年10月2日（月）～10月15日（日）

1.5. 報告書の見方

回答構成比は端数調整のため、合計が100%にならない場合がある。

2. 調査結果

2.1. 全体集計結果

本調査の全体集計結果については以下の通りである。無作為に抽出した5,000件の調査票の内、宛先不明で返送されたものが95件、回答数が1,159件であった。有効送付数は4,905件であるので、本調査の回答率は23.6%であった。

表 2-1 全体集計結果

アンケート送付数	5,000
宛先不明	95
有効送付数	4,905
回答数	1,159
回答率	23.6%

2.2. 属性

本調査では、回答者の属性として性別（問1）と年齢（問2）を確認した。

2.2.1. 性別

回答者の性別は「女性」が50.2%、「男性」が48.3%、「答えたくない」が0.9%であった。

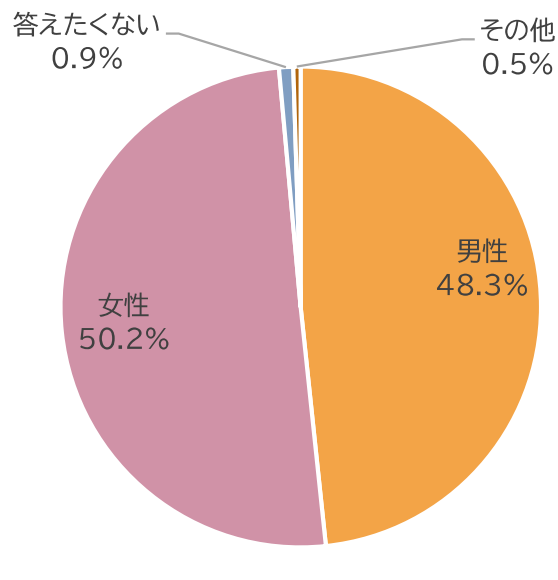
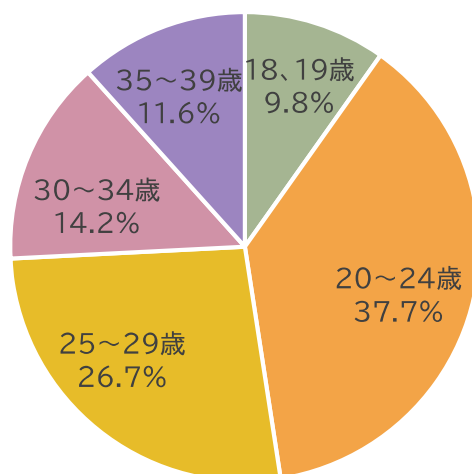


図 2-1 性別

2.2.2. 年齢

年齢は「20～24歳」が最も多く、37.7%であった。次いで、「25～29歳」が26.7%、「30～34歳」が14.2%であった。



(n=1,159)

図 2-2 年齢

性別年齢別の回答比率は、18、19歳では男性が6割を超えているが、他の年齢では男女の比率は概ね均衡している。

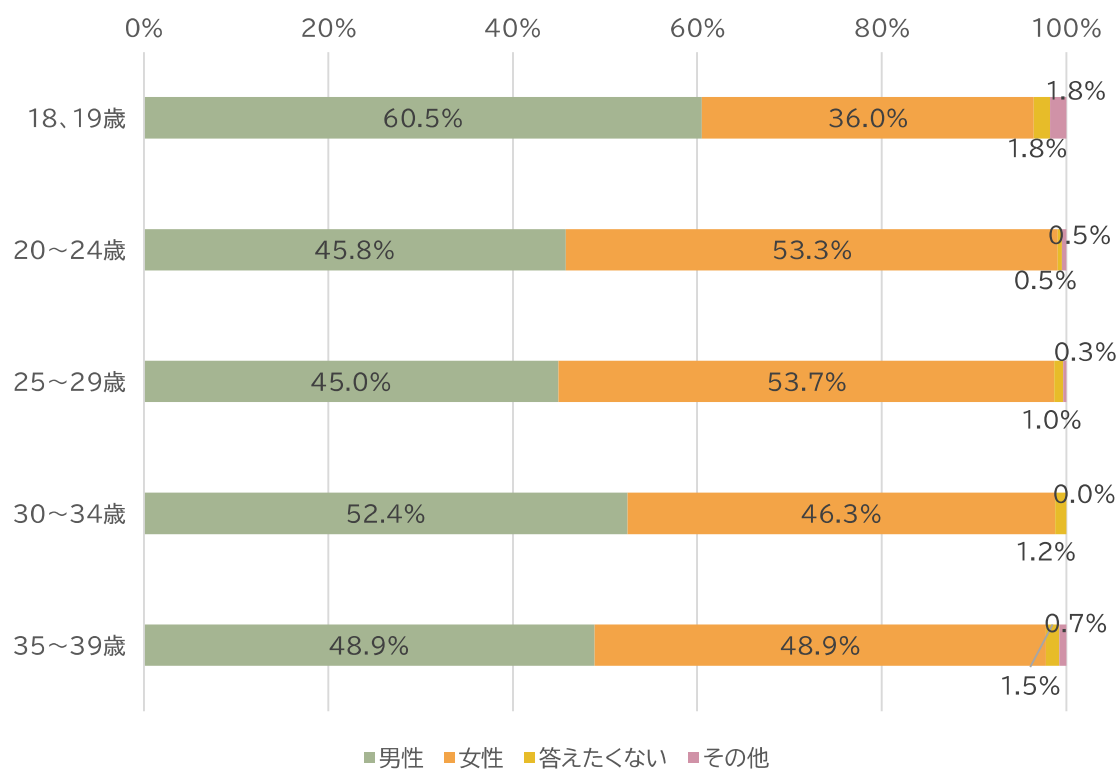


図 2-3 性別年齢別の回答比率

2.3. 転出前後の状況

転出前後の状況の把握のため、転出先（問3）、転出前後での世帯構成の変化（問4、問5、問6）を確認した。

2.3.1. 転出先

転出先は「福岡県」が最も多く、21.5%であった。次いで、「東京都」が 14.1%、「大阪府」が 6.8%であった。

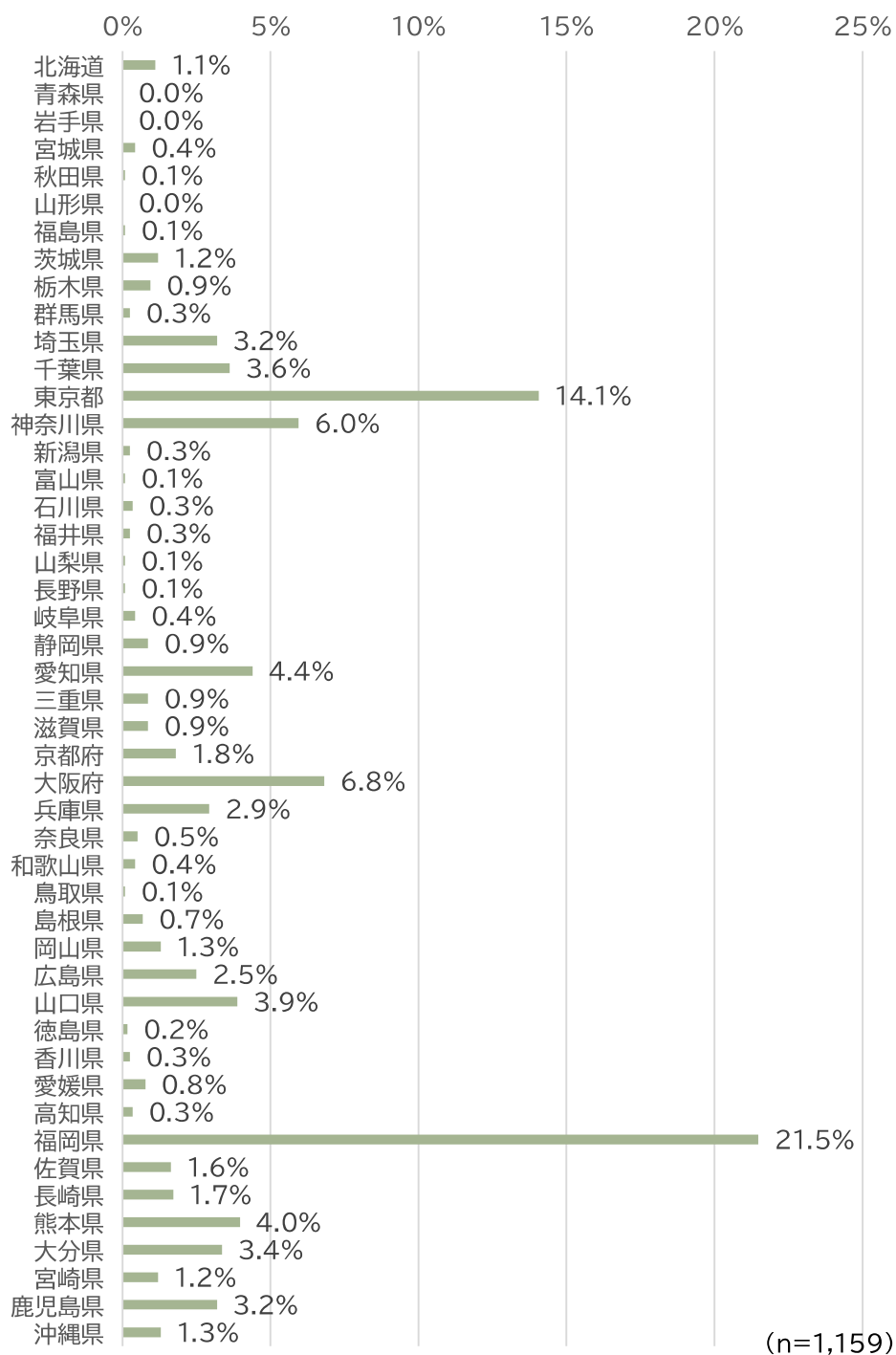


図 2-4 転出先の都道府県

「福岡県」と回答した場合は、追加設問で福岡県のどの市町村に転出したのか確認を行った。転出先として最も多かったのは「福岡市」で39.8%を占めている。それ以外では、「飯塚市」、「行橋市」、「宗像市」、「福津市」が各4%程度となっている。

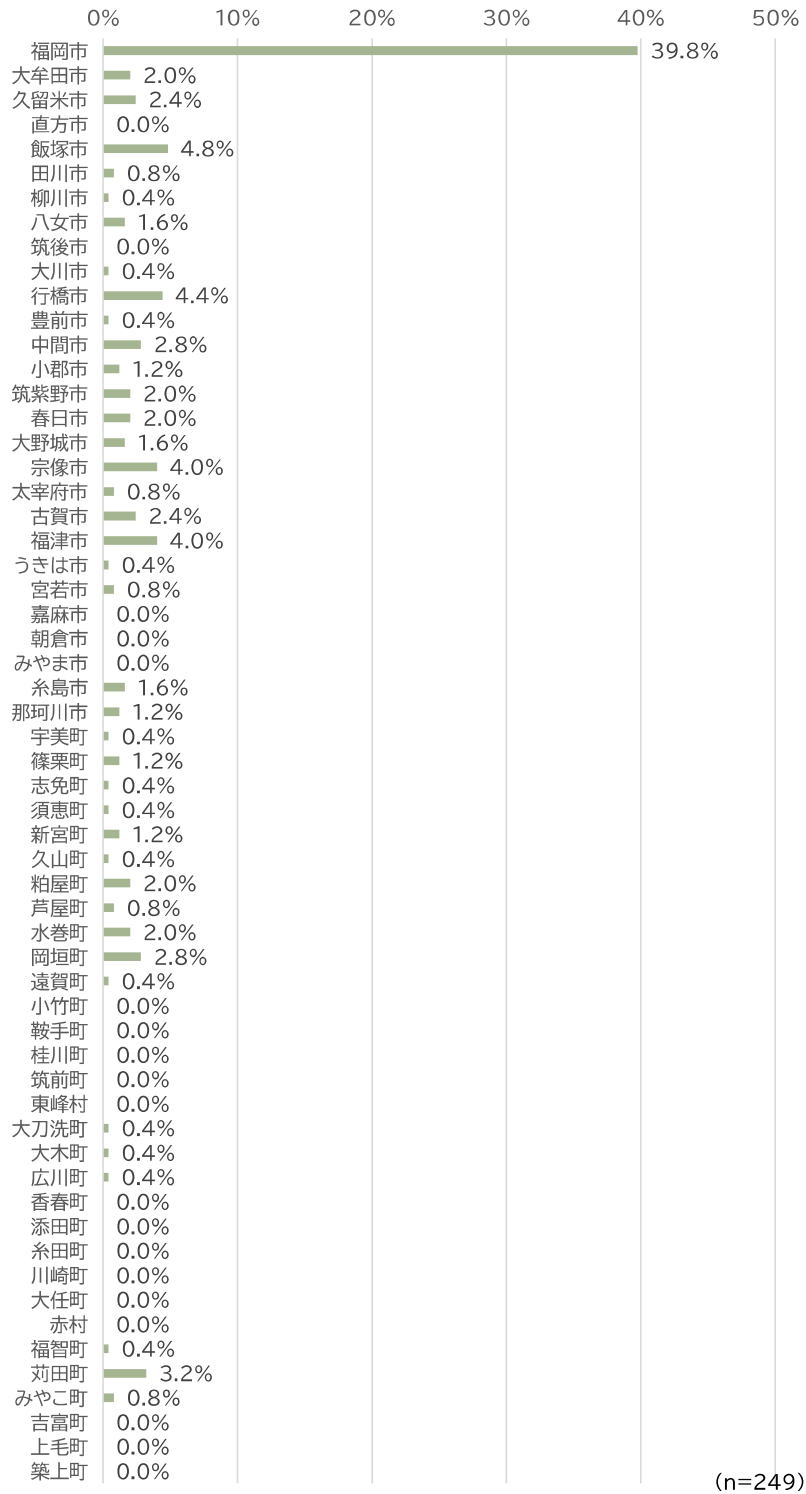


図 2-5 転出先の市町村(福岡県)

2.3.2. 世帯構成

転出前の世帯構成については、「親子(2世代)」が最も多く55.0%であった。次いで、「単身」が34.8%、「親・子・孫」が4.4%、「夫婦のみ」が3.9%であった。

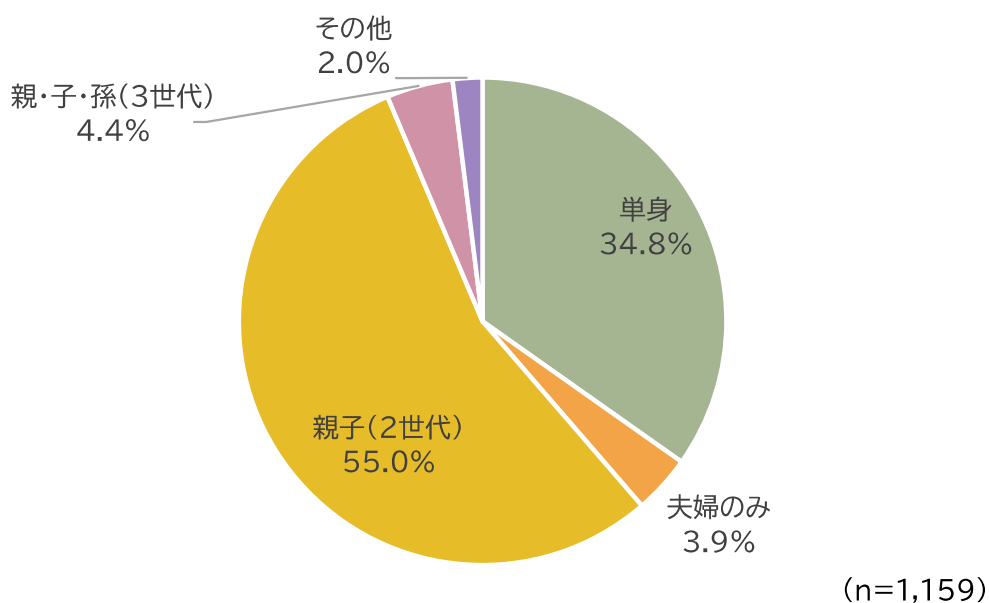


図 2-6 世帯構成(転出前)

転出後の世帯構成については、「単身」が大半を占めており、63.4%であった。次いで、「親子(2世代)」が15.1%、「夫婦のみ」が14.8%、「親・子・孫(3世代)」が1.6%であった。

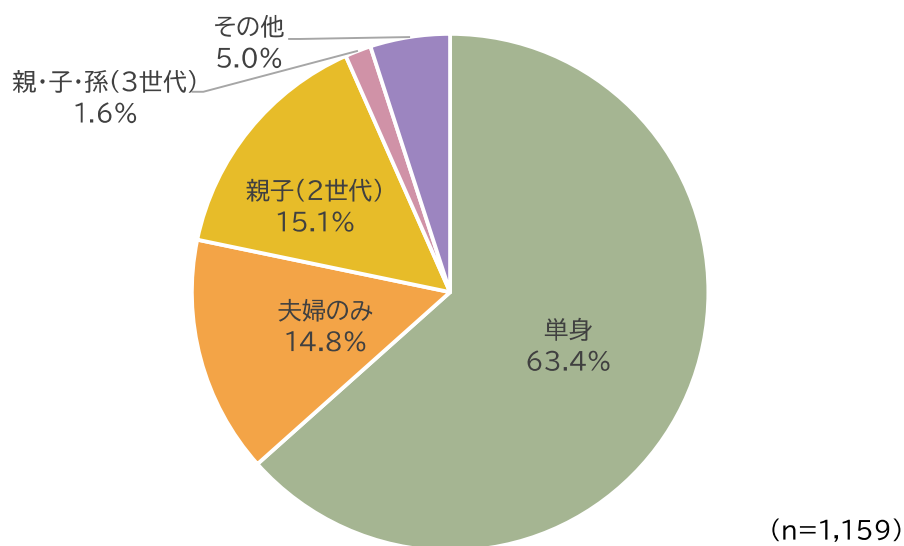


図 2-7 世帯構成(転出後)

転出後の世帯のうち、子と同居する世帯に子の就学状況について確認した結果（複数回答）、「未就学（小学校入学前）」の子がいる世帯が最も多く、111件の回答があった。

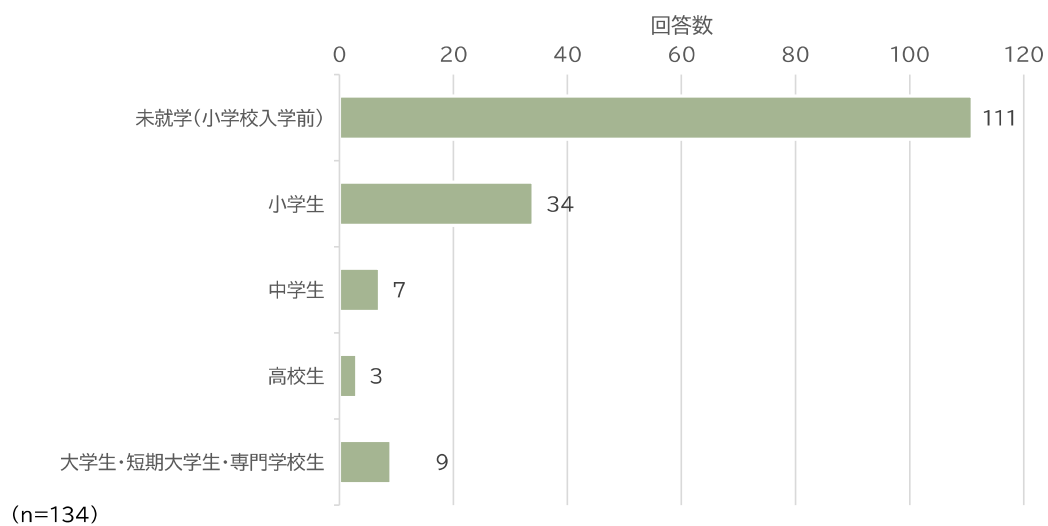


図 2-8 同居する子の就学状況(転出後)

2.3.3. 住居の所有形態

転出前の住居の所有形態については、「賃貸の集合住宅（マンションなど）」が最も多く、43.1%であった。次いで、「持家の一戸建て」が32.4%、「持家の集合住宅（マンションなど）」が11.9%であった。

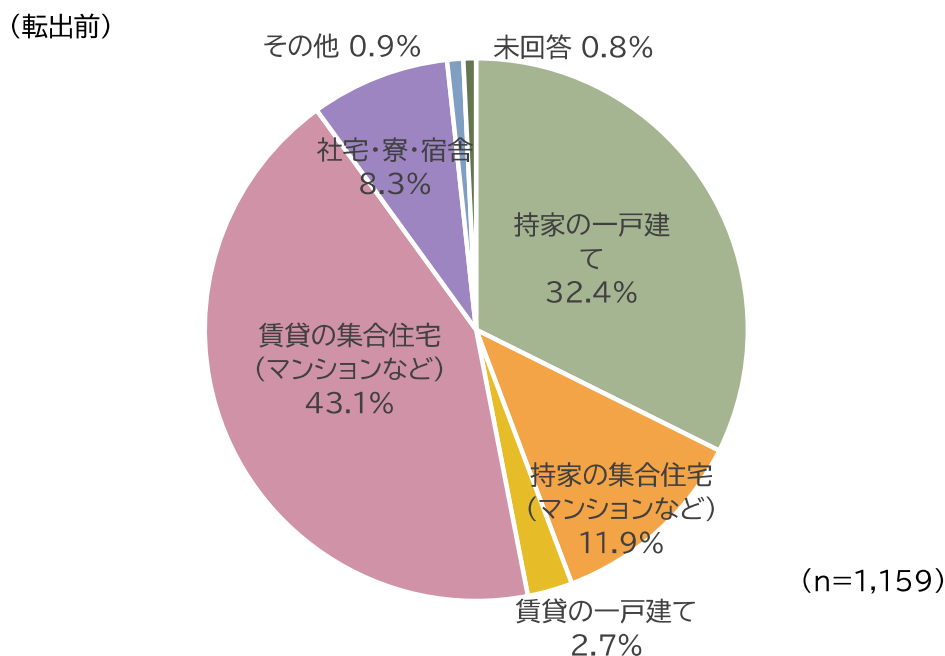


図 2-9 住居の所有形態(転出前)

転出後の住居の所有形態については、「賃貸の集合住宅（マンションなど）」が最も多く、58.9%であった。次いで、「社宅・寮・宿舍」が20.8%、「持家の一戸建て」が11.3%であった。

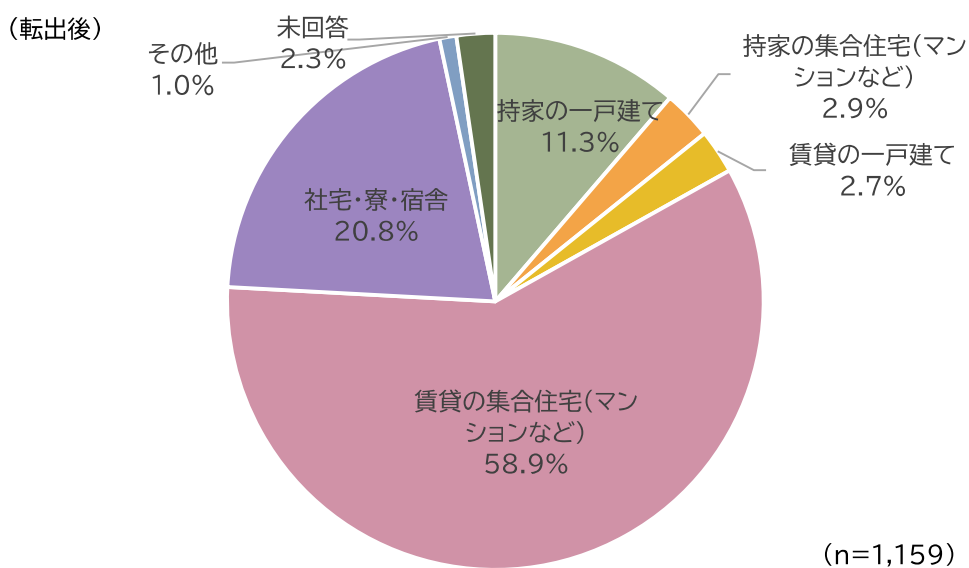


図 2-10 住居の所有形態(転出後)